

第二回地球温暖化対策部会報告

地球温暖化対策部会長 澤 佳成

1、事前の意見照会結果一覧表の取り扱いについて

【提案】(部会での決定事項)

標記文書は、委員からの貴重な意見が記された、議論の一部を構成する性格のものであることから、公的な資料として取り扱われるべきと考えます。そこで、意見照会のあった事案に関する事務局提案の文書には、照会の結果あつまった意見が盛り込まれるようにするべきだと考えます。

(具体策)

事務局の提案する資料には、盛り込まれた委員の意見の該当部分に黄色いマーカーを引き、また、すぐ対照できるよう提案資料の該当ページを付す、といった形で配布してほしい。

2、環境基本計画の検討体勢について

【提案】

第3次環境基本計画でも、5つに分けた計画が、事務局から提案されました。温暖化と生物多様性以外についても担当と時間をかけた検討体勢を作るべきです。このままでは、アンケート作成を優先し、本来の環境基本計画の検討がおざなりになることを危惧します。

【理由】

第2次環境基本計画と同様、表現は違うものの、5つの分けた計画が、事務局から提案されました。しかし、地球温暖化と生物多様性は部会に分けて検討している形ですが、他の3つはまともな時間や体勢がとれる状況ではありません。事務局は「メールなどで意見を出していただいて…」とのことですが、部会だけでは全体がまとまる形にまで仕上げることは困難ですし、事務局だけでなんとかできるとも思えないためです。

3、環境像について

【提案】

～ のように、複数の意見が提起されました。本会で議論した後、いくつかの案に絞り込み、アンケート調査や広報ふちゅう、SNS等で市民のみなさんに聞いてみてはどうかという結論に至りました。

第1次、第2次環境基本計画で踏襲されてきた「人も自然もいきいきする環境都市・府中」でよいのではないかと。「ほっとするね 緑の府中」という標語もわかりやすい。

現行の環境像の「自然もいきいきする」というのは、初めて見た際、「自然は怖いもの」というイメージがあるため少し違和感を覚えた。それよりも、すべての項目に関係する、市民が環境について学ぶ教育に力を入れていくんだというフレーズなど、具体的に府中市がこれに力を入れるんだとすぐイメージできるものにしたほうがいいのではないかと。

事務局案の「地域から地球へ みんなで創る 持続可能なまち 府中」のうち、「みんなで創る」という部分を「未来へつなげる」と修正してはどうか。未来を創るのは、次世代を担うこどもたちであるし、良好な環境を未来へ残すという基本計画の理念とも合致するので。

府中市は歴史的な景観がたくさん残されているまちなので、「文化」という言葉を大事にするべきではないかと。

環境像には数ある具体的な方策をすべて入れ込むのは難しいので、ある程度抽象的になるのは仕方ないのではないかと。そこで、ほかの自治体にとってもモデルケースとなるような環境像が示せばいいのではないかと。

望ましい環境像について、子どもにもわかりやすい文言がよい、アンケート・市報などで市民を選んでもらうのも良い考えと思う。

4、具体的な方法の抽出について

【提案】(部会での決定事項)

意見照会の結果だされた委員からの意見には、傾聴すべきたくさんの方の具体策が記されています。それらを、庁内での担当部局との調整が必要といった前提はいったんわきに置いたうえで、事務局のほうですべて抽出し、「現在行っているもの」「今後取り組みそうなもの」「いまずぐには難しそうだけれども将来的に取り組みそうなもの」にわけて一覧表にするよう提案します。ぜひ、10月の本会時から資料として配布するよう希望します。

(理由)

環境像を決めるためには、府中市として具体的にどのような取り組みがしたいのか、それも並行して話し合われるべきだと考えます。そうしなければ、環境像はたんなる言葉遊びになってしまいかねないからです。

そうならないためには、環境像というときの「像」、すなわち、審議会としてイメージしている府中市の具体的な像、こうなりたいというまちのイメージがまず検討される必要があると考えます。そのためには、府中市で何ができるかという具体的な方策に関する議論が欠かせません。そのために、提案のような作業を事務局に行っていただき、議論のたたき台として、委員からの具体策に関する意見がすぐわかる一覧表にしてもらえたら、というのが提案の理由です。

5、基本方針について

【提案】

- 1) いま、基礎調査や、世界・国・都の動向に関する調査は、事務局案の基本方針とどのようにリンクしているのかわかりにくくなっています。それが、議論の円滑化を阻んでいるようにも思われます。そこで、今後の会議資料では、事務局の考える5つの基本方針ごとに、その裏付けとなるようなかたちで、基礎調査の結果や世界・国・都の動向を文章化し、提示してください。
- 2) 資料6-3の4ページの図において、基本方針1~4ごとに、主要な実施主体(WHO)を想定し、その主体が何をするのか(WHAT)を示すことで、本計画の特色(本計画は「ひと」の行動を重視すること=本計画のWHY:特色)を表現することを提案いたします。そのために、くわえて基本方針5の部分で、基本方針1~4ごとの主要な実施主体を明記するよう提案します。具体的には、例えば 市民、 事業者、 公共、 大学、 地域団体といった主体が想定されます。このように、誰が、何を遂行するかを表に加えれば、各基本方針を協働・連携のもとに進めつつも、基本方針1~4の主役が自分たちであると意識してもらえると考えるためです。
- 3) 「脱炭素」という表現は変えるべきであると考えます。理由としては、2030年までにCO2排出量の半減やカーボンハーフの実現には、市民生活、ビジネス、都市づくりなど様々な分野での社会経済構築を脱炭素型に移行する再構築・再設計が必要です。今回5つの基本方針(案)に記載のある「脱炭素」という踏み込んだ表現では、「脱炭素化」等飛び越え一足飛びな表現となってしまいます。現時点では、「脱炭素化」「脱炭素社会」といった表現にするべきだと考えます。また東京都の「ゼロエミッション東京」等の文書にも「脱炭素化」「脱炭素社会」「低炭素化」といった表現となったり、それらとあわせるべきではないでしょうか。
- 4) 基本方針は(案)の内容でおおむねよいと思います。基本施策については、原案には内容の意味が不明なものや重複があるため、よく検討すべきです。

6、アンケート調査について

【提案】

現段階において、以下の点を、アンケート調査で市民のみなさんに問うてはどうかと提案します。

(質問項目の案)

○環境像の案について

本文書の2に関連して、次回審議会本会を経てまとめられると思われる、複数の環境像案について、アンケート調査で市民のみなさんにどれがよいか訊いてはどうか。

○環境教育のあり方について

現在、とりまとめが最終段階に入っている府中市総合計画においては、環境教育のいっそうの推進という点が重視されている。また、良好な自然環境、住環境を未来へつないでいくという点も、第1次・第2次環境基本計画では重視されている。そこで、環境教育のあり方について、市民のみなさんに問うてはどうか。

- ・現在行っている環境教育
- ・これからぜひ取り組んでほしい環境教育 など

○府中の環境を伝えていく活動について

日ごろの活動から、昔の府中を学校の先生も子どもたちも知らないと感じる。おそらく親御さんも府中で育った人は少ないのでは。昔の府中の環境、多摩川や魚や昆虫を語り継ぐ語り部をやってもいいよという人を発掘し保全活動センターで登録しておけるような項目があるといいのでは。

なお、アンケート調査の内容は、会議を経て、その都度アンケート調査の原案をより良いものにしていく必要があるというのが、第2回審議会本会での議論の結論であると理解しています。すなわち、10月審議会本会で提起されるアンケート調査の事務局原案は、9月の両部会での議論から抽出されたものが盛り込まれ、また、それを受けての10月審議会本会での議論で提起された内容も、そのあと盛り込まれるものと理解しております。事務局と建設技術研究所のみなさまにおかれましては、この確認事項についてご留意いただきますよう、よろしくお願いいたします。

7、環境教育のテキストの作成

【提案】

総合計画では、良好な環境を未来に残すべく、未来を担う子どもたちへの環境教育をよりいっそう推進する旨が記されています。そこで、学習指導要領の理念にもとづいた府中市の環境教育のテキストをつくるよう提案します。

【理由】

学校では、先生がたが数年で移動になるため、府中の環境についてあらためて学び、子どもたちへの環境教育へ活かすという実践が難しい実情があります。そこで、先生にとっても子どもたちにとってもわかりやすい、府中市の環境教育のテキストがあれば、府中市の環境についての学校での学びが、よりいっそう促進されるのではないかと考えられるからです。作成する際には、府中市の小中学校長や先生方の意見を盛り込めれば、なおよいのではと考えます。

以上